



鬼は外 福は内

♪自分で恵方巻き作りに挑戦♪



今年も健康で
心豊かに
過ごせますように



ふくろう新聞

社会福祉法人
ひょうご聴覚障害者
福祉事業協会
〈発行〉
特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員会
〒656-0002
洲本市中川原町中川原28番地1
TEL: 0799-25-8550
FAX: 0799-25-8551

ホームページリニューアルしましたので、
順次更新していきますので、
よろしくお願ひ致します。



淡路ふくろうの郷では、月川ユニット・山ユニット・星海ユニット・花木ユニットにて入居者さま1人1人に邪気払いとして、「鬼は外、福は内」と示しながら、豆を鬼に向けて投げ、豆まきをしました。入居者さまや職員の皆さんと一緒に、鬼に炒った豆をぶつけて、悪いものを追い出すことが出来ました。

節分は、「みんなが健康で幸せに過ごせますように」という意味をこめて、悪いものを追い出す日です。昔から日本では、春は1年の始まりとされ、特に大切にされ、節分は季節の分かれ目、次の日から「立春」良い事がありますように。

今年も、淡路ふくろうの郷では、2月3日(土)に節分レクリエーションを行いました。淡路ふくろうの郷では1ユニットにてインフルエンザが流行っており、ユニットの一部では隔離という形で最小限に行いました。

力いっぱい投げられる人や心優しく投げられる人それぞれおられました。無事に退治できよかったです。そして、今年の記念として1人1人と写真を撮ることができ、良い思い出として残すことができました。私も、今年、入居者さまや職員みなさんが健康で安全に元気に過ごせるように願いました。まだまだ施設内外では、インフルエンザやコロナが流行っており入居者さまや職員の皆さんと奮闘する日々ですが、少しでも早く解放ができるように皆さまと協力しあつて頑張りたいと思っています。

そして、2月5日(月)には、入居者さまと一緒に恵方巻き作りを行ない、自分で作った恵方巻きを食べさせていただくことができました。

最後になりますが、今年も健康で心豊かに過ごせますように願っています。

(生活援助員 畠ひづる)

『デフリンピック』をご存知でしょうか？デフリンピックは4年に一度開催され、夏季と冬季が交互に2年ごとに開催され、IOC(国際オリンピック委員会)の公式支援を受けた大会です。今年も冬季デフリンピックが3月2日から3月12日の間、トルコ・エルズルムで開催され、カリーニング競技に当法人職員の長澤理佐子(神戸平野ふくろうの樹管理者)が出場します。この新聞が発行される頃には、好成績の報告を受けていただけるよう期待しています。

ニッセイ財団助成事業
第1回きこえのなんでも相談会

(1月17日…丸山公民館)

生き生き100歳体操の参加者の方々を対象に「きこえのなんでも相談会」を開催しました。まずは①きこえに関するミニ講義②ヒヤリンググループの説明と聴聴③聴力測定(沖田耳鼻科協力により言語聴覚士派遣)④個別相談を行いました。

参加者70〜90歳代の女性8名で聴力測定を受けた6名のうち5名が軽中等度難聴であることがわかりました。事前に相談会の説明にうかがった際には、特にきこえは大丈夫と話しておられました。しかし、自分の聴力結果を見て、大事に持っておいて、次回の検査に比べられるようにしておくとおっしゃっていました。自分のきこえに関心をもっていただくことがうかがえ、また、来年も来てほしいといううれしい感想をいただきました。

(聴覚障害者センター
助成事業担当・高木)



▲耳のマッサージを行う参加者

ハラスメント研修 ～よりよい職場環境づくりを目指して～

毎年淡路ふくろうの郷では、全職員対象にハラスメント防止研修を実施しています。ハラスメント防止研修は、ハラスメントに対する正しい認識を持ち、未然に防止することと、コミュニケーションの停滞を解消し、職場環境を改善することが目的です。職場におけるハラスメントは、労働者の能力発揮を妨げるばかりでなく、企業の社会的評価を著しく低下させることにもなりかねない雇用管理上の問題です。また、一旦発生すると職場内で以前のような関係を再度構築することが困難となったり、被害者にとりかえしのつかない傷を負わせることとなります。【ハラスメントは人権侵害です。】

今回の研修では、主にパワーハラスメント防止に関して研修をおこないました。研修ではこんな事例がパワーハラスメントとなるのかと思うようなことも分かってもらえたと思っています。

これからも、当法人の基本理念である「一人ひとりを大切に(人権) ともに生きる(共生)」をモットーにお互いを尊重して、悩みがあれば一人で悩まず周りに相談できる職場環境づくりを今後も取組んでいきます。(総務主任 倉本卓也)

☆職員の感想☆

- ・何がパワハラとなるのかパワハラの定義を改めて知ることができた。
- ・パワハラは部下から上司へもあるということを学んだ。
- ・人によってとらえ方や感じ方の違いがあることは当然ですが、動画内にあった例の中にも判断が難しいケースも多々あると感じ、改めて対応や判断の難しさを感じる事ができた。
- ・普段の自分の言動を振り返って気を付けなければいけないなと思った。
- ・何事も相手の立場を考慮すること、信頼関係が一番大事だと思う。
- ・自分は大丈夫と思っていたことが間違いであり、思い違いがあることがわかった。

ふくろう物語 森高 清文様



▲クリスマス会

令和5年3月6日よりふくろうの郷のショートステイを利用され、5月24日に月ユニットに入居されています。

大正15年5月25日にお生まれになり、現在97歳です。洲本市の先山の下で生れたとお話になられていました。

お仕事は三洋電機にお勤めになり、夜勤をしながら百姓もしていたとのこと。お見合いで奥さまと出会われ結婚、娘さまと息子さまに恵まれました。



▲ふくろうふれ愛まつり（ご家族と）

ご家族からはやさしい父親であり、やさしい夫であったと話されています。またご近所さまとも仲が良く、友達の家を順番に回り、カラオケを楽しむのが趣味だったそうです。ご自身にお話を聞くと、「そうやなあ」と懐かしむ様子でしたが、お仕事については「せんどやつとったからなあ、いろいろよ（長いこと働いていたから色々作った）」と

いでは「へたくそやからなあ」といずれも詳しくはお話になられませんでした。

他にも若い頃の話を探ねると、はにかんだ様子で「そんなん忘れてしもたわあ」とお話になられるなど、シャイな一面もあります。

ふくろうの郷ではお話されるのがお好きで、職員にもよく話しかけてくださります。テレビで見たニュースについて、その日の食事やおやつの感想、その時の季節にちなんだお話など、色々なことを話してくださいます。いつもニコニコとされており、職員の心も癒されており、また、行事や活動にも積極的に参加されており、施設での生活を楽しんでいただけているように思います。

笑顔の素敵な森高さまがこれからも笑顔であふれる日々を過ごしていただけるようにお手伝いできればと思います。

（月川ユニット 岡本 洗一）

3月 ふくろうの暮らし

- 3/4（月） ふくろう理髪店
- 3/5（火） ふくろう大学演劇講座
- 3/6（水） 誕生日会
- 3/13（水） ふくろう大学手話講座
- 3/16（土） ふくろう大学書道講座
- 3/19（火） ふくろう大学絵手紙講座
ふくろう大学修了式
- 3/22（金） ふくろう大学料理講座
- 3/23（土） ふくろう大学ちぎり絵



▲餅つき

**淡路聴覚障害者
センター便り**

洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館 3階

職員研修会 「面接時の心構えにつ いて」「ケース検討」

2月10日(土)
中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンターにて開催しました。

京都市聴覚言語障害センター
情報提供施設部で相談員を
されている若狭妙子氏をお招
きして研修会を開催しまし
た。当センター職員の外、就
労継続支援 B 型事業所、居宅
介護支援事業所、相談支援事
業所、特養施設相談員の 16 人
が参加しました。

当センターからのケース検
討については、相談を受ける
立場の私たち職員が、相談者
の心理をどのように理解して
傾聴の姿勢や気持ちの持ち方
や(自分の中にある相反する
批判的な気持ち)、精神の安定



▲ケース検討について参加者で情報共有

▲ケース検討について参加者で情報共有

生活相談で対応できる相談
内容と専門機関(カウンセリ
ング)のすみ分けや社会資源
に繋げて、聴覚障害者のこと
を知ってもらえる人や機関を
増やし、より身近な地域での
暮らしが今よりも良くなるよ
うに支援していきたいと思
いました。(瀬田)

◆**入口での対応の大事さ**

「突然来所されて、本人の気
持ちが落ち着くまでには通常
1時間ぐらいの対応を求めら
れる。相談内容は進展がなく
不平不満についての繰り返し
し。」若狭氏が働いている職場
では、まずは窓口対応での相
談となり、時間を要する場合
などは別室での対応となるの
で、じっくり話を聞いて対応

◆**専門機関への繋ぎや複
数職員での対応を**

生活相談で対応できる相談
内容と専門機関(カウンセリ
ング)のすみ分けや社会資源
に繋げて、聴覚障害者のこと
を知ってもらえる人や機関を
増やし、より身近な地域での
暮らしが今よりも良くなるよ
うに支援していきたいと思
いました。(瀬田)

を保つにはどうすれば良いの
か、また、職員が統一した対
応するにはどうすれば良い
のかについて助言を求めまし
た。

来所された時に、相談時間は
○分までしか対応できない
などと事前に伝えておき、職
員一人が抱えるのは荷が重い
と思うので職員が交代して対
応するなどの体制を整えてお
く。又、同じ話の繰り返しで
あれば、「前も聞いたわ」「そ
の言い方は傷つくと思う」な
ど職員が受取った感情を一緒
に、返してあげてもいいと思
うと助言をいただきました。

令和6年度手話奉仕員養成講座

手話を初めて学ぶ方のための講習会です

○昼コース 4月24日~令和7年3月12日
(毎週水曜日)10:00~12:00
洲本市総合福祉会館

○夜コース 4月25日~令和7年3月13日
(毎週木曜日)19:00~21:00
洲本会場:洲本市健康福祉館
南あわじ会場:南あわじ市中央公民館
淡路会場:津名公民館

学習内容:全38回
募集人員:各会場15名程度
受講料:3,300円(テキスト代)
応募締め切り:4月15日(月)

要約筆記者研修会

2月17日(土) ひょうご要約筆記講師の会から吉
野恵氏を講師にお迎えし「パソコン要約/全体
投影」の研修を行いました。

最初に本日の流れを確認した後、イベント会場
を想定しての事前準備、プロジェクター等を設営
し、さあ入力練習です。司会のセリフは、原稿が
あっても途中で追加や修正があるので油断禁物で
す。そして、入力したものを振り返りながら講師
の講評。

参加者からは「講演の模擬形式でとても勉強にな
った。」「研修会は年2回以上
開催してほしい。」「研修会で
の学習を実践に活かしたい。」
との感想がありました。(酒井)





**ふれあい職員研修開催
「コミュニケーション技術の向上」**

2月22日(木)午後5時から、ふれあい広場にて今年度最後のふれあい研修会を開催しました。

**中川原高齢者・障がい者地域
ふれあいセンター**



☎ 656-0002
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2
TEL 0799-28-0990
FAX 0799-28-0992

講師に兵庫県介護福祉士会・淡路ブロック理事の原 暁子氏をお招きし「コミュニケーション技術の向上」というテーマでお話しいただきました。「バイステイックの7原則」の解説や、「ご自身の体験談も交えた興味深い内容でした。業務や対象者が違うふれあいセンターの4事業所ですが「明日からやってみよう！」と思える内容が多くありました。職員同士のコミュニケーションも、今以上に大切にしていきたいですね。

(相談支援専門員 高木)

今回の研修の中で「コミュニケーションは伝わりづらいものである」というのを聞きし、ハッとさせられました。日頃、伝わっているものとして会話を続けていると、途中でおかしいなあと感じることが時々あります。相手に伝わっているのか、どのように伝わったのか確認が必要だと再認識しました。

(おのころの家職員 興津)

この度は、接遇という、非常に難しいテーマでした。私たちはその場で相手の方に合わせて、色々な判断をしなければならぬことが多いです。日々の勤務の中での基本的な姿勢、考え方を思い返すことができました。

(デイ職員 竹内)

「広田梅林のお花見」

2月19日(月)皆で広田梅林

ふれあい公園で行われている梅まつりへ行きました。出発前は小雨がぱらつくあいにくの天気でしたが、公園に到着する頃には雨はあがり、利用者さんの気持ちがあがり、良かったです。到着してからはグループや個人で公園内をゆっくり歩きながら梅を見てまわりました。



感想を聞いたところ「梅のいい匂いがした」「きれいだった」「いろんな色の梅の花が咲いていた」、いろいろと感想を頂き、「また行きたい」と話して頂けました。農業班はタマネギの定植が終わり、畑の草引きや地域支援での草集め作業が続いていたので良い気分転換になりました。まだまだ寒い日が続いていますが、一步一步春を感じる事のできる良いお花見になりました。

(おのころの家職員 矢田)

「大正琴」演奏感動!

2月28日(水)、琴芳会の皆さん9名が大正琴の演奏に来て下さいました。

デイサービスの利用者さん始め、地域の方やおのころの利用者さん25名の参加でにぎやかな演奏会になりました。

または是非お越しいただきたいです。

(デイ職員 竹内)



神戸長田ふくろうの杜

兵庫県神戸市長田区神楽町5丁目3の14の1
電話：078 798 7940
FAX：078 798 7941

季節を感じる

節分にちなんで

「難聴デイサービス」

難聴デイサービスでは昼食をスタッフが手作りしています。二月二日は明日が節分ということもあり、少し早いけれど利用者さんの希望で巻きずしを作ることになりました。一人ずつ、すし飯と海苔、具材を用意して各々自分で巻きずしを作ってもらいました。

男性の方は初めて作る方がほとんどで、「うまくできるかな」、女性の方も「久しぶりだわ」と話しながら楽しんで作りました。作った後は作法通り、今年の恵方を向いて黙って頂きました。やっぱり自分で巻いた恵方巻はサイコーかな？。

「長田デイサービス」

長田デイサービスでは節分にちなんだゲームをしました。4階の放課後デイサービスの子供たちが

作った鬼の形をした的の口の中に新聞紙を丸めてテープを巻いた「豆」を投げ込むゲームです。上から投げたり、下から投げたりと皆さん頑張っていて鬼退治をして楽しみました。その後は皆さんで節分の想い出を話し合いました。

「難聴デイサービス」

難聴デイでは節分クイズに挑戦しました。利用者さんからは、知っているようで知らなかったこともあり、面白くてためになったわという感想を頂きました。



Facebook ページ
毎週更新中!!

※2月号の訂正のお詫び

ふくろうの新聞2月号の写真の注釈にて「胸椎圧迫」となっていましたが、正しくは「胸骨圧迫」です。訂正させていただくとともにお詫び申し上げます。



「ふくろうの杜デイサービス」

ふくろうの杜デイサービスでは、二月三日の昼食に巻きずしが出ました。一本を十等分ほどに切ったものが提供されましたが、皆さん食欲旺盛で、全部食べきった人もおられました。

恵方巻きの具材には何を入れる？何が好き？という話では、うなぎ、かんぴょう、きゅうり、たまご、牛肉、しいたげ、かにかま、高野豆腐：などなど、それぞれの家庭の味のお話を聞くことができました。

恵方巻きには七福神にちなんで七種類の具材を入れると縁起が良いとされ、巻くことで「福を巻き込む」食べることで「幸運を取り込む」という意味



が込められているそうです。ふくろうの杜の利用者達は、たくさんの福を取り込めたようです。

作品作りでは、鬼のお面や節分の壁飾りなどを作成しました。怒っているような顔、驚いているような顔、ちょっと眠そうな顔：作る人によつて鬼の表情が違ふところがとてもおもしろかったです。フロアの壁には梅の花がたくさん咲き、うぐいすがやつてきました。一雨ごとに暖かくなる時期ですね。風邪や花粉症にも気をつけながら、みんな元気に暖かい春を迎えたいと思います。